



「進化するかがみいし」の  
実現に向けて

鏡石町長 遠藤 栄 作

あけましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、健やかに輝かしい希望に満ちた新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。  
さて、震災からまもなく3年が経過しようとしており、復旧事業については、概ね順調に進展をみているところです。今後も町民の皆様には、手応えを一層感じていただけるよう鋭意努力してまいります。

町では、第5次総合計画におけるまちの将来像『かわる、かがやく、牧場の朝』のまち かがみいし』の具現化に向け、「やさしさとふれあい」「復興と進化」を基本理念としてまちづくりを進めてまいります。まちの将来像実現のため、震災からの復興、さらに一歩先を目指した施策を5つの目標に掲げ、町民と行政が一体となったまちづくりを推進していく所存であります。

復興のシンボルであります第一小学校校舎新築事業につきましては、今月末完成の運びとなっております。仮設校舎で学校生活を送っていた子どもたちも、3学期中には新しい教室で勉強できることとなります。また、小学校敷地内には、放課後児童クラブや避難場所ともなる「児童ふれあい交流施設」の建設や、災害等緊急時の飲料水・消防用水を確保する「耐震性貯水槽」設置も併せて進めており、災害時に備え安全・安心を確保してまいります。

子どもを対象とした運動施設などの整備や地域の活性化を目的とした「子ども元気復活交付金」事業により、鳥見山多目的広場の人工芝化、ふれあいの森公園のアスレチック遊具更新・人工芝滑り台の人工芝更新、町内児童公園等16ヶ所の遊具が新しくなります。町内の多くの子どもたちの運動不足を解消し、元気な笑顔が見られるよう環境を整備してまいります。

本年は、進化する鏡石実行プロジェクト推進として「東日本大震災シンボル設置事業」、被災者の生活再建のための「災害公営住宅建設事業」、町活性化と良好な住宅地を提供する「駅東第1土地区画整理事業」などを推進してまいりたいと考えております。

これからも町民の福祉向上に最善を尽くしてまいりますので、本年も格段のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



鏡石ブランド推進で  
復興進化に弾みを

鏡石町議会議長 渡辺 定 己

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。町民の皆様には、目まぐるしい社会情勢の中にあっても、力強くご健勝にて新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。また、平素から議会活動に、多大なご支援、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、東日本大震災から3回目のお正月となりますが、今なお震災の影響は色濃く残り、特に福島原発事故による放射能問題は『汚染水漏れ』等、未だ大きな脅威となっており、それぞれに不安な気持ちを抱えたまま、新年をお迎えになられた方も多いのではないのでしょうか。

町内の災害復旧状況を見ると、資材人材不足による工事の遅れが見られるものの、工事の発注はほぼ完了し、平成26年度には工事も大きく動くものと考えられます。特に第一小学校は1月に完成する予定であり、新校舎において将来の町を担う子どもたちが、元気に学校生活に励む姿が目に見えてまいります。

町議会としても、この苦難の時期に町民の皆様とともに安心安全のまちづくりに取り組むべく、震災関係予算につきましては、果敢なく臨時議会等により対処してまいりました。また、昨年は執行と共催で鏡石町初となる『子ども議会』を開催いたしました。当日は10名の子ども議員が一般質問に登壇。町行政について、子ども目線ならではの『鋭い』質問が飛び交いました。子ども達は全員、大変立派な姿勢で発言しており、我々『大人』の議員も改めて、身の引き締まる思いでありました。これからも議会の活性化を図り、町執行や関係機関へ町民皆様方の生の声をお届けできるように、議員活動に努める所存であります。

一方、放射能風評被害は本県に対して大きなマイナスイメージを植え付けており、各分野での積極的な取組にも関わらず、今なお、こうしたマイナスイメージを払拭するまでには至っていない感があります。今後はこうしたマイナスイメージに對峙するのではなく、丸ごと包み込んでしまうようなイメージを作り上げていくことが大切なのではないでしょうか。本町のイメージアップにつながるような、復興キャラクター・ゆるキャラの出現が望まれます。お正月の初夢に『かがやく鏡石のゆるキャラ』が現れ、今年こそ、それが現実のものとなることを祈念するものです。

年頭に当たり、町民の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、今年もより一層のご支援をお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

